

ブータン密教・1979年の記録

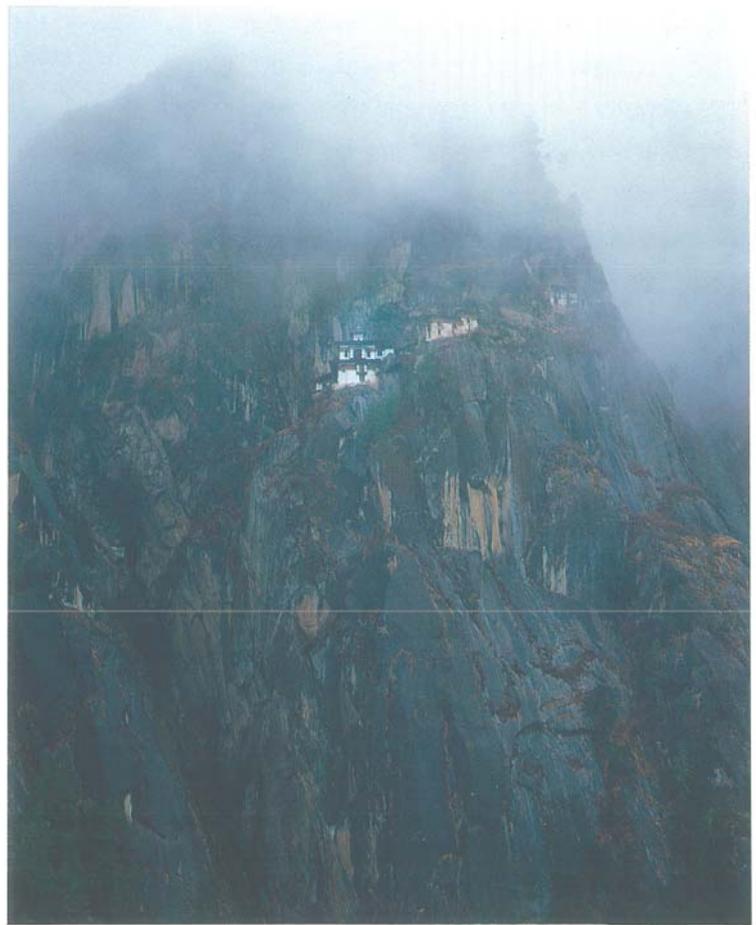
永坂嘉光

ブータンはヒマラヤ山麓にあるに九州ぐらいの大きさの国で、自然環境が豊かな仏教国である。ヒマラヤの巨大な山脈と深い森林によって隣国から隔離されている国であった。

地理的条件も加わり、長く鎖国状態にあったが1962年コロンボ計画、1969年万国郵便連合に加盟し、1972年には外務大臣が任命され、何世紀にも渡る、鎖国状態から国際的な場に足を踏み入れたのである。ブータンはやがて開発され、1974年に建てられた迎賓館が以降ホテルとして使用されたりして観光客の受け入れ体制を整えた。最近ではインドから飛行機で入国出来るようになりブータンツアーが多く企画され多くの人々がブータンを訪れている。

私は密教の聖地高野山を撮影していたが日本の密教寺院や堂塔、仏像の形のルーツや思想の原点を知る必要性を感じていた。1979年、ブータンが鎖国から解かれて間もなく密教調査団の一員として撮影取材をする機会を得た。

当時日本ではブータン王国が世間で知られていない時でもあったので、カメラがほとんどが入ってなかった時期でもあった、初めての調査と言う事で貴重な仏教資料等多く写真に納めることが出来た。ブータンの魅力に虜になり、その後1980年にも再度の撮影に訪れた。



タクサン僧院遠景
海拔3000メートルの山腹に建てられた僧院、900メートルの絶壁に建っている。

今では観光化に伴い多くの方々がブータンを訪れているが、現在でも密教が生きている国であり、宗教上の理由で拝観出来ない寺院もたくさん出てきている。今回発表の機会を得たので一部であるが日本の密教のルーツ（ブータン、1979年の記録）を掲載した。



パロツエチュー

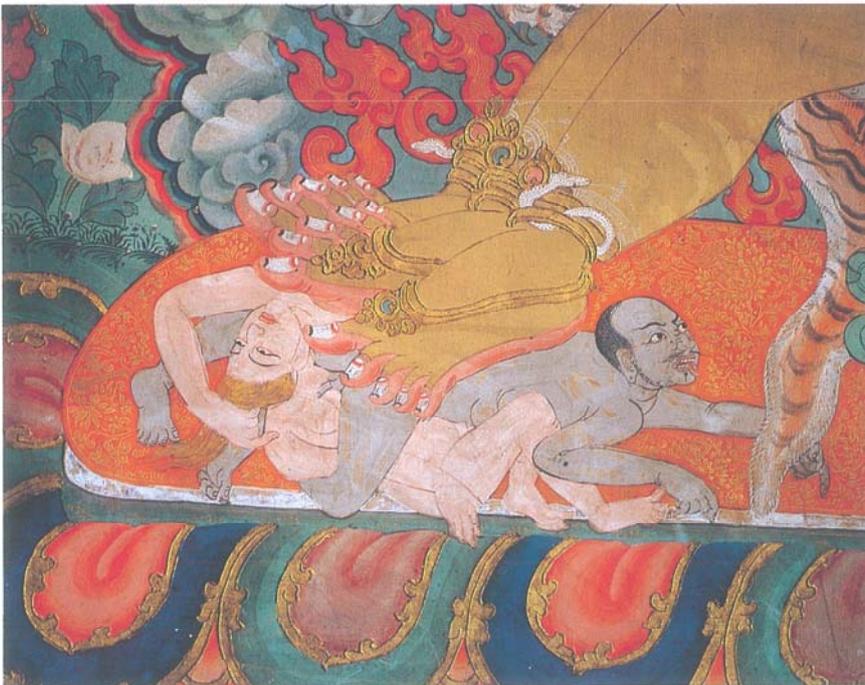
パロのまつりの最終日の未明のみ開帳されるラマ教の開祖グルバドマサンババの壮大な仏画とラマ僧による法会。



儀式が終わり、おろされ巻かれる15メートルのトンデュ（織られた仏画）



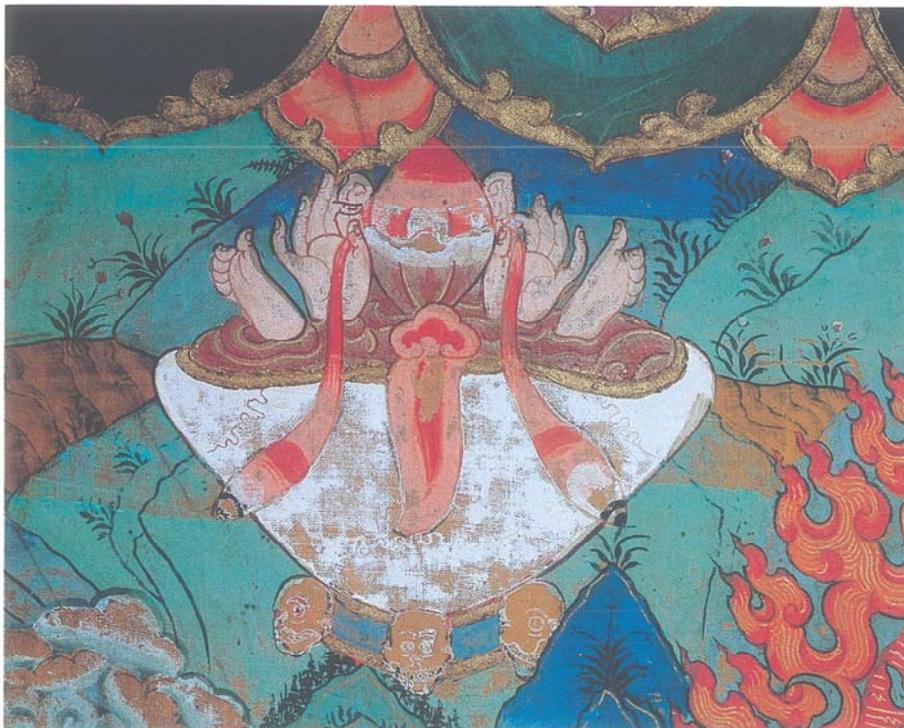
忿怒仏 明王の合体仏であるが、怒りの境地によって人を救う姿を象徴的著すのである。



足下で性的合体の魔を押さえているのである。



男女合体仏と見受けられ尊像は無上瑜伽の悟りの世界を著し、大安楽の知恵の世界を手段として合体尊として描いている。



部分



あらゆる魔を火で焼き尽くすというのが、護摩であるが、ブータンの護摩は限り無く天に近いと言う意味もあって屋外で修される。



砂曼陀羅－3時間もかけて作られた曼陀羅の上に、護摩の木を置き、護摩壇がつくれ、火を放ち護摩行がなされる。



パロツェチュー（仮面ダンス）

ヒマラヤ地域の中で昔から伝わる宗教舞踊が一番忠実に残っているのはブータンと言われている。宗教的な祭りはほとんど踊りが中心になってくる、主にラマ僧が踊り 経典にかかっているストーリーや伝説、道徳的な教え等を舞踊によって着している。

